

居住地特性および交通行動の変化に着目した 運転免許返納者の特性把握

社会システム計画学研究室2010年度卒業研究 山本和生

研究の背景

運転免許返納制度

高齢ドライバーが起こす交通事故が増加し、事故を防止する目的で1988年に始まった。近年では返納者への支援が進み、**運転免許返納者は増加している**

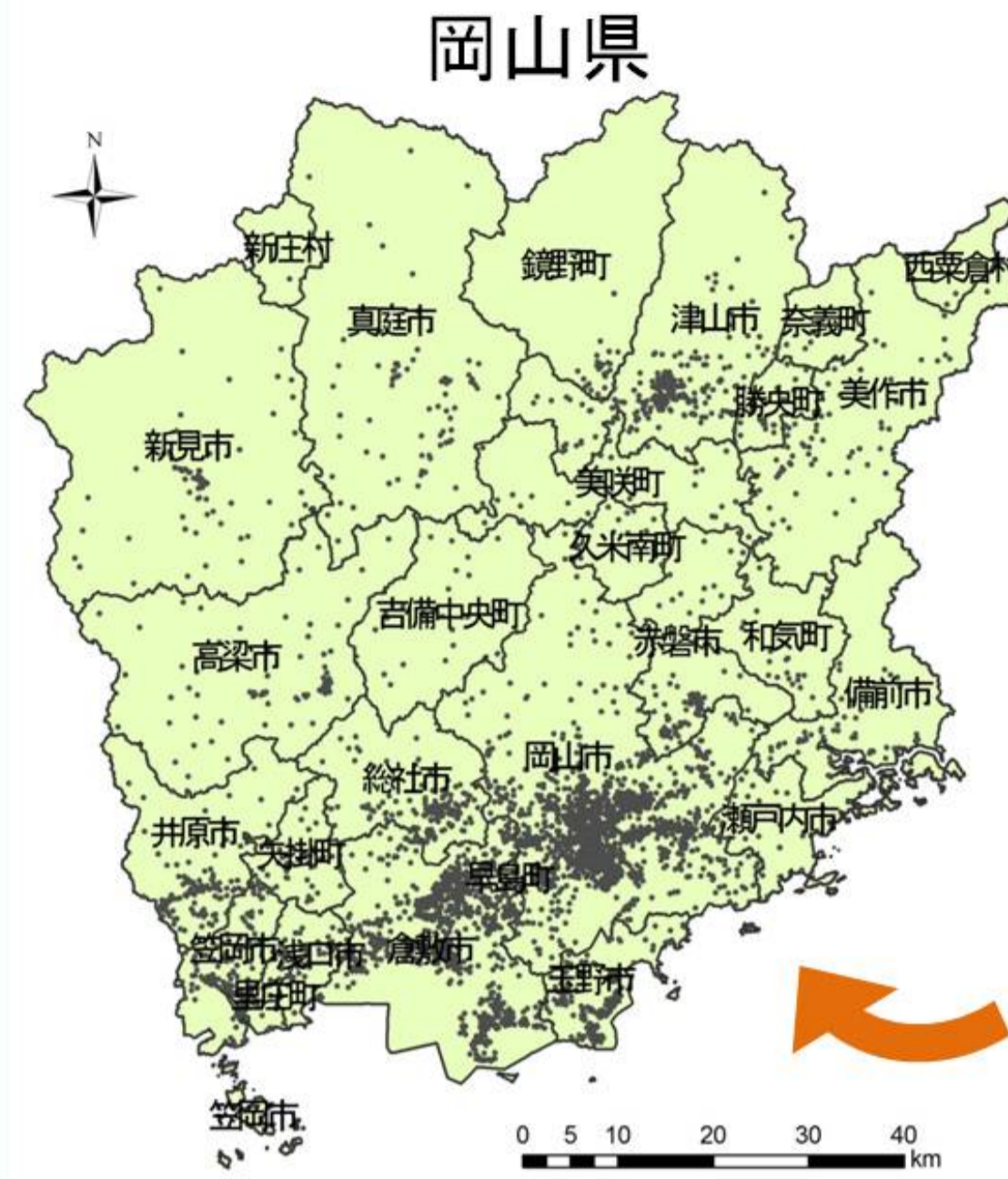
- ✓ しかし、運転免許返納者は保有者の1%にも満たず、まだまだ少ない
- ✓ どのような人が返納しているのか？返納者はどこに住んでいるのか？など、運転免許返納者の特性は明らかとなっていない

研究の目的

運転免許返納を促進するために
「**運転免許返納者の居住地特性**」・「**免許返納ができる条件**」を明らかにする

- ① 免許返納者の居住地をGIS上でポイントレベルで整理することで、店舗や病院、バス停といった生活に必要なサービス位置関係を踏まえ、その実態を明らかにする
- ② 実際に免許を返納した人を対象としたアンケート調査からどのような状況で返納し、どのような生活を送っているのかを明らかにする

分析対象地域と使用データ



2009年11月25日から岡山県では運転免許返納者に「おokayama愛カード」を発行

2009年11月～2010年10月までの約1年で5129人が愛カードを取得(返納者の94%)

住所データから愛カード取得者の居住地をGIS上にプロットして分析

アンケート調査の概要

調査名	第1回調査	第2回調査	第3回調査
対象者	愛カード取得者本人	愛カード取得者の家族	愛カード取得者本人
調査方法	聞き取り調査	郵送配布・郵送回収	電話による聞き取り調査
調査実施時期	2010年5月	2010年9月	2010年12月～2011年1月
有効サンプル数	447部	188部	205部
主な調査項目	・個人属性 ・健康状態 ・返納前の運転頻度 ・返納理由 ・返納後の移動手段		・返納理由 ・返納後に困ったこと ・買物、通院行動について ・公共交通の利用状況 ・送迎の状況

分析結果①

免許返納者の居住地特性

岡山県津山市を対象に分析

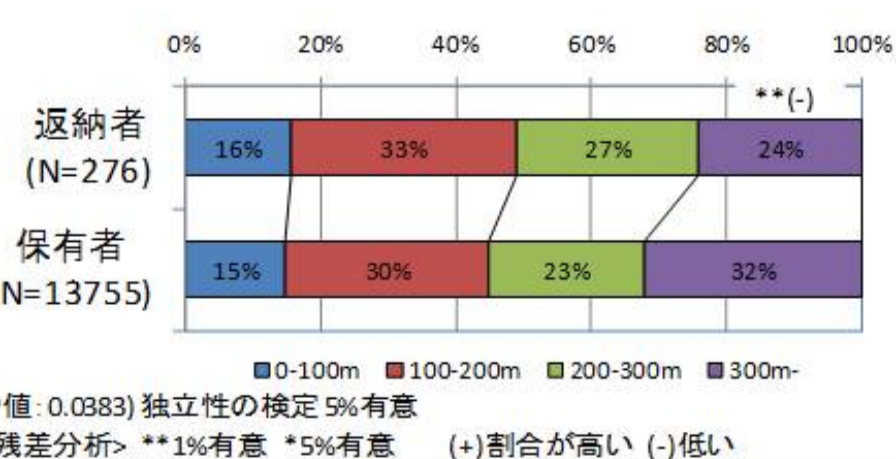
- ・免許返納者 (N=276) 2009年11月～2010年10月
- ・65歳以上の免許保有者 (N=13755) 2011年1月

GIS上で整理した施設一覧(津山市)

区分	名称(施設数)	出典	備考
病院	救命救急センター(1)	岡山県医療機能情報提供システム(2008)	
	小規模病院(97)	岡山県医療機能情報提供システム(2008)	
店舗	大型SC(13)	全国大型小売店総覧(2006)	店舗面積1000㎡以上の大型小売店舗
	スーパーマーケット(7)	電話帳(2009)	
その他	コンビニ(27)	市内に展開するコンビニエンスストア各社のHPより(2010)	
	鉄道駅(14)	1/2500住宅地図(2009)	JR西日本HPより運行本数を整理
	バス停(492)	津山市より提供	

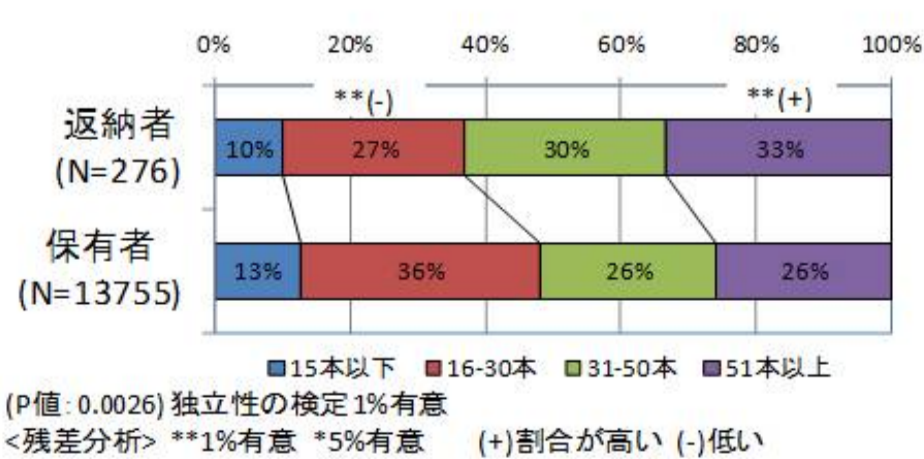
- ・免許返納率の高い地区は津山市の中心部に集中
- ・自動車に依存する中山間部では返納者がいない地区も多い

最寄りバス停までの距離



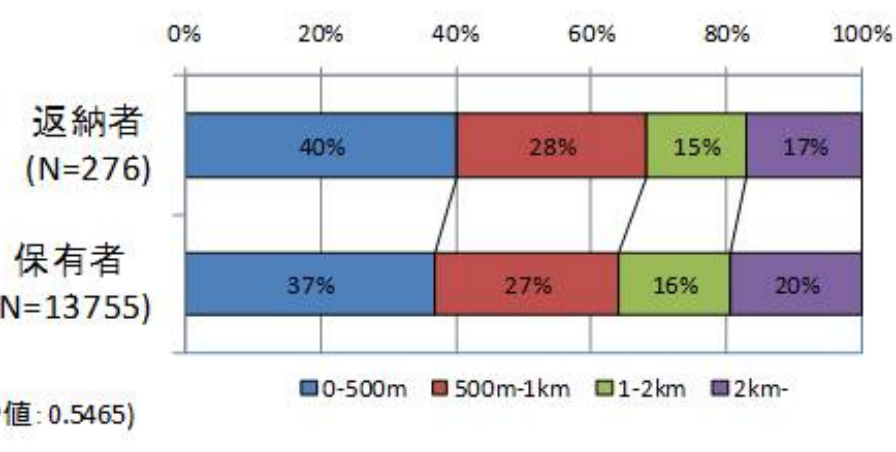
返納者はバス停までの距離が遠い人の割合が少ない

最寄り駅の運行本数



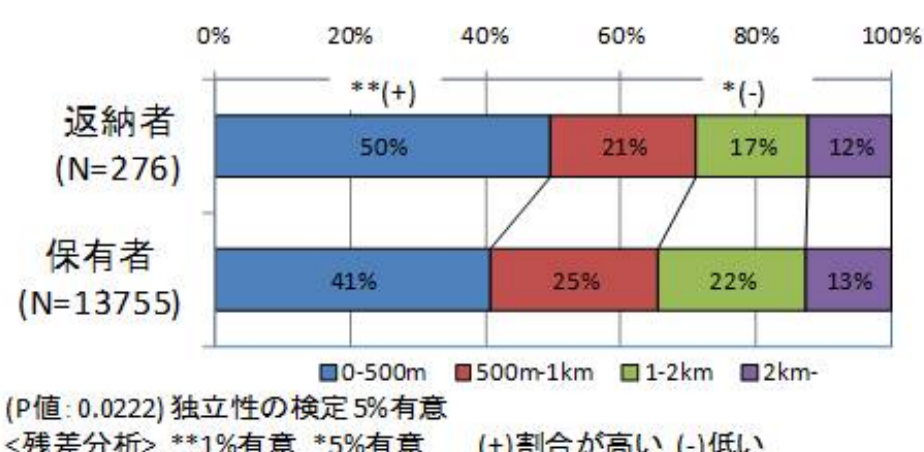
返納者は最寄り駅の運行本数が多い

最寄り店舗までの距離



返納者と保有者で有意な差は見られない

最寄り病院までの距離



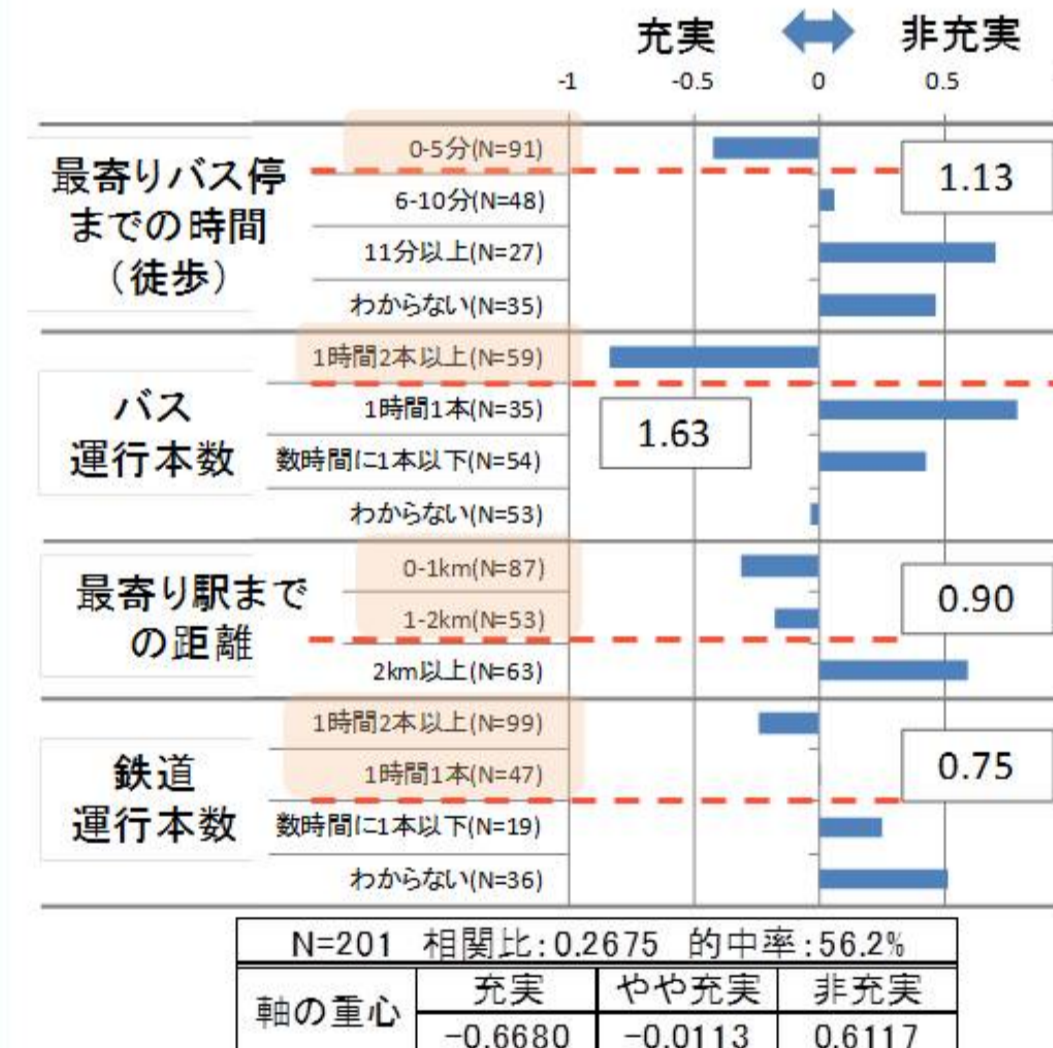
返納者の方が病院に近い人が多い

分析結果②

免許返納意志に関する要因分析

- ・自主的な返納には公共交通の充実度の影響が大きい
- ・世帯構成が多世代になるほど勧められて返納する

じゃあ充実って？



結論

免許返納者の居住地特性

- ・岡山県全体で見ると、県南部で免許返納者が多い
- ・津山市で見ると生活しやすいと考えられる津山市中心部やその周辺で返納者が多いが、自動車に依存する中山間部では少ない
- ・免許返納者と保有者の居住地を比較したところ、公共交通や医療施設で差が見られ、返納者の方が利便性の良い地域に居住する割合が高いことがわかった

免許返納の要因

- ・自主的に返納するためには公共交通が充実していることが重要
- ・世帯が多世代である場合は勧められて返納する人が多い
- ・自主的な返納を可能とする公共交通の充実度として
バス: バス停まで徒歩5分以内・1時間に2本以上運行
鉄道: 駅2km圏内(鉄道が通っている)・1時間に1本以上運行